

幼稚園・保育所における保育内容・方法の違いが、小学校入学以後に及ぼす影響

清原 みさ子
(愛知県立女子短期大学)

1. はじめに

現在、幼稚園、保育所における保育内容・方法は多様である。早期能力開発、英才教育の必要性を強調して、特別に英語や音楽、体操等を教えている園もあれば、自由な遊びの中でさまざまな活動にとりくむ意欲を育てることをめざしている園もあるし、集団づくりにとりくんでいる園もある。

こうした異なる保育を経験した子ども達に、小学校入学後、勉強への興味の持ち方、教科の好き嫌い、友達づきあい、遊び等で、異なる傾向を見出すことができるのであろうか。

幼児期の保育内容・方法については、今後さらに研究が積み重ねられなければならないが、それを考える上で、異なる保育経験を持つ子ども達を、小学校低学年、高学年と追跡していくことは、大きな意味を持つと思われる。

2. 調査の目的と概要

文部省科学研究費の助成を受けて、「幼稚園・保育所と小学校との関連を考えるための調査」を行った。この調査は、異なる保育を経験した子ども達が、小学校入学以後、学校での勉強や遊び、家庭での生活時間、手伝い等で、一足の傾向を示すかどうかを探ることを目的とした。調査は、1983年6月から12月にかけて、名古屋市内の公・私立幼稚園、公・私立保育園を卒園し、小学校2年生になっている子どもとその保護者を対象に行った。2年生を対象にしたのは、子ども達が学校の生活にも慣れ、保護者も学校での子どもの様子や勉強の進み方等がわかった時点で、1回目の調査を行い、高学年になった時に2回目の調査を行って、継続的に追跡したいと考えたからである。調査は、各園から卒園生の名簿を借り、用紙を家庭に直接郵送し、回答を記入して返送してもらう方法で行った。

調査対象とした園のうち、私立幼稚園（以下「私幼」と略す）は、専門教師による体操指導、ハーモニカ・ピアノ等の器楽指導、外人教師による英語指導、システム教材による指導を行い、伸びる芽を十分に伸ばすことを方針としている。公立幼稚園（以下「公幼」）、公立保育園（以下「公保」）、私立保育園（以下「私保」）では、子ども達が遊びや生活の中で文字や数に興味を持てば

それを伸ばすことはしても、とりたてて教えることはしていない。文字や数、楽器の扱いを覚えることよりも、意欲をもって遊びに集中することや、友達を大切にすることを重視している。

〔保護者用〕の調査項目は、通わせた幼稚園、保育園に関するものとして、「入園させた理由」「通わせて良かったと思うこと、良くなかったこと」、学校に関するものとして、「喜んで通学しているかどうか」「得意な科目、不得意な科目」「学校でのようすをよく話すかどうか、どんなことを話すか」「勉強のすすみ方はどうか」、家庭に関するものとして、「勉強や遊び、手伝い等に1日平均どのくらいの時間をあてているか」「手伝いのしかた、内容」等である。その他、「子どもの長所、短所」「どんな子どもになってほしいと思うか」「将来どんな人間になってほしいと思うか」も質問している。「同居している人」と、「差しつかえなければ」ということで、記入者の年齢、学歴、職業等も記入してもらった。

〔子ども用〕の調査項目は、「学校は楽しいかどうか、どんなことが楽しいか」「学校の勉強は楽しいかどうか」「好きな科目、嫌いな科目」「学校で友達と良く遊ぶか、どんなことをして遊ぶか」「仲良しの友達は何人位いるか」「家へ帰ってから遊ぶか、だれと遊ぶか」「塾や習い事で、どんなことをしているか」という現在の生活に関するものと、「幼稚園、保育園でしたことを覚えているかどうか、どんなことを覚えているか」「幼稚園、保育園で楽しかったのはどんなことか」という記憶していることから成る。

3. 調査の結果と考察——教科の好き嫌い、得意不得意を中心に

調査項目は、「2.」で述べたように広範囲にわたるので、ここでは、〔保護者用〕の「得意な科目、不得意な科目」と〔子ども用〕の「好きな科目、嫌いな科目」を中心に、学校での勉強がどのように受けとめられているのかを見ていく。

まず、調査した園の数は、「公幼」3、「私幼」5（同一法人の園）、「公保」8、「私保」3である。回答数は、「公幼」男子78名（保護者は76名）女子65名、「私幼」男子79名（保護者は80名）女子64名、「公保」男子55名（同54名）女子48名（同49名）「私保」男子24名、女子

表1. 得意な科目

不得意な科目

%

	公 幼		私 幼		公 保		私 保		公 幼		私 幼		公 保		私 保	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
あ る	78.9	73.8	81.3	71.9	83.3	83.7	83.0	80.0	61.8	55.4	61.3	53.1	63.0	61.2	75.0	62.0
な い	6.6	7.7	6.7	6.3	9.3	6.1	0	4.0	18.4	27.7	18.8	21.9	18.5	28.6	20.8	20.0
わからない	13.2	15.4	12.5	18.8	7.4	10.2	12.5	12.0	17.1	13.8	17.5	20.3	14.8	10.2	4.2	20.0
国 語	11.8	35.4	6.3	29.7	9.3	38.8	29.2	40.0	22.4	7.7	31.3	14.1	29.6	14.3	20.8	12.0
算 数	43.4	26.2	47.5	28.1	35.2	26.5	33.3	16.0	10.5	15.4	10.0	26.6	14.8	22.4	12.5	24.0
理 科	23.7	6.2	15.0	9.4	22.2	16.3	20.8	4.0	3.9	6.2	5.0	7.8	5.6	10.2	8.3	8.0
社 会	10.5	4.6	7.5	6.3	9.3	12.2	4.2	12.0	6.6	10.8	12.5	4.7	9.3	20.4	12.5	12.0
音 楽	7.9	30.8	12.5	31.3	5.6	24.5	12.5	28.0	13.2	6.2	12.5	1.6	11.1	2.0	16.7	4.0
体 育	30.3	23.1	32.5	26.6	40.7	28.6	37.5	32.0	6.6	20.0	7.5	9.4	1.9	6.1	8.3	16.0
図 工	18.4	15.4	25.0	12.5	27.8	22.4	29.2	0	13.2	10.8	2.5	6.3	5.6	8.2	29.2	12.0

表2.

%

	公 幼		私 幼		公 保		私 保		公 幼		私 幼		公 保		私 保	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国 語	52.6	66.2	49.4	68.8	43.6	66.7	54.2	79.2	41.0	24.6	38.0	25.0	49.1	25.0	41.7	20.6
算 数	69.2	58.5	67.1	59.4	61.8	58.3	66.7	58.3	28.2	32.3	26.6	34.4	32.7	33.3	29.2	37.5
理 科	67.9	67.7	63.3	75.0	72.7	72.9	66.7	58.3	25.6	27.7	25.3	21.9	21.8	22.9	25.0	41.7
社 会	65.4	64.6	57.0	65.6	56.3	58.3	62.5	58.3	26.9	26.2	32.9	29.7	30.9	35.4	29.2	41.7
音 楽	52.6	84.6	53.2	92.2	54.5	83.3	54.2	91.7	35.9	7.7	30.4	4.7	36.4	8.3	41.7	8.3
体 育	89.7	83.1	88.6	79.7	98.2	93.8	83.3	83.3	7.7	13.8	7.6	17.2	1.8	8.3	12.5	16.7
図 工	71.8	78.5	86.1	79.7	70.9	68.8	75.0	62.5	20.5	18.5	10.1	15.6	18.2	29.2	20.8	37.5

24名(同25名)である。回収率は、男女とも「公幼」が一番高く、「私幼」が一番低く、両者の間には、 χ^2 検定で有意差がみられた。

〔保護者用〕で「得意な科目はありますか。」「あると答えた方は、得意だと思われる科目を具体的にお書き下さい。」「不得意な科目はありますか。」「あると答えた方は、不得意だと思われる科目を具体的にお書き下さい。」という質問に対する答の結果は、表1のようである。
〔子ども用〕で「学校の勉強で好きなものはどれですか。好きなものには全部()の中に○をつけましょう。」「学校の勉強で、嫌いなものには全部()の中に×をつけましょう。」という質問への答の結果は、表2のようである。

保護者の回答をみると、科目による男女差が大きい。国語や音楽は、女子の方が得意という率が高く、算数理科、体育では、男子の方が高率である。国語は、男女とも「私幼」が一番低く、算数は一番高いというように、幼稚園、保育園での経験の違いによる一定の傾向はみられない。子どもの回答にも、国語と音楽は、女子の方が好きという率が高く、算数は男子の方が高いというように、科目による男女差がみられるが、保護者の得意な科目にみられる差のように大きくはない。

表1、2から、幼児期に、文字や数、ハーモニカやピアノ、体操等を教えれば、国語や算数、音楽、体育が、好きで得意になるとは言えないことがわかる。

〔保護者用〕で、幼稚園、保育園に通わせて良かったと思うことに○をつけてもらった結果、「字が読めるようになった」、「字が書けるようになった」、「数えられるようになった」と答えた率は、男女とも「私幼」が高く、2番目に高かった「公保」との間にも χ^2 検定による有意差がみられた。幼稚園へ通わせて字が読めるようになったり、書けるようになったりして良かったと答えた人が、得意な科目で国語をあげているという傾向はみられない。同様に、「数えられる」とこと、得意な科目で算数をあげることに、関連はみられない。

〔子ども用〕の「学校はたのしいですか」「たのしいとこたえた人はどんなことがたのしいですか」という質問に、「勉強」をあげた子の率や、「学校の勉強はたのしいですか」という質問に「たのしい」と答えた子の率も、保育の違いによる一定の傾向はみられない。

4. おわりに

以上みてきて、幼児期に、文字や数、ハーモニカやピアノ、体操等を教えることは、小学校低学年の段階で、それぞれに対応する教科が好きで得意になることには、つながっていないことがわかる。高学年になった時に、さらに追跡をしたいと考えている。また、今回の調査で、幼保により違いのみられた「塾や習い事」「手伝い」等に関しては、さらに分析検討を加え、機会をみつけて発表する予定である。